

1. 調査報告概要表

作成日 2009年8月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1090500081
法人名	(有)ひまわり介護サービス
事業所名	グループホーム サンフラワーⅡ
所在地	群馬県太田市台之郷町307番地 (電話) 0276-60-2942

評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	前橋市大渡町1-10-7群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年6月24日

【情報提供票より】(21年6月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建て	1階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	500円/日 円
敷金	有(48,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,100 円	

(4)利用者の概要(6月8日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 80歳	最低	64歳	最高	88歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	有坂医院 小林内科 伏島医院 おおや歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

テラス越しに見渡せる田畑の風景は、建物をより一層広々と感じさせ、利用者がのびのびと生活できる環境になっている。明るく清潔感のある環境の中で、自由に誰でも出入りでき、生き生きと活気ある時間を過ごしている様子がうかがえる。理念で掲げているように、利用者にとってここで生活をしてよかったと思ってもらえるケアを実践していくために、地域住民との関わりを重視しながら管理者と職員が実践を積み重ねているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価について検討し、地域住民との関わりを理念に盛り込み実践している。運営推進会議には、行政職員・近隣住民・老人クラブ・区長・民生委員も出席するようになった。介護計画もモニタリングやアセスメントを行いながら、3ヶ月に一度の定期の他、必要に応じて見直しを行っている。避難訓練では消火器の取扱業者や地域に協力してもらい実施しているが、消防署への依頼には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>内容を職員誰もが共有出来るよう、みんなで意見を出し合いながら自己評価を行った。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に家族の他に、行政職員や自治会関係者も加わり、様々な意見が出されるようになった。ホームへの理解や親しみも深まり、会議以外でも立ち寄ってもらう機会が増え、花や産物を持ってきてくれたり、公民館で使用していた机の利用なども声をかけてもらっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月請求書を渡す際や新聞の発行と一緒に手紙を付ける他、口頭でも普段の生活を知らせながら、家族の意見を聴くようにしている。実際の生活と家族の思いをしっかりと受け取めながら、理学療法士と相談しリハビリも強化している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム主催の行事へのお誘いや地域行事への参加にとどまらず、日常的なつながりや声掛けが定着している。そのため小学生や近隣住民が気軽に立ち寄ってくれている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に加え、グループホーム独自で地域との関わりを一層重視して、サービスを提供していくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が職員と一緒に情報を共有しながら、実践を積み重ねて、理念の実現に励んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との関わりを大切にしており、ホームへの招待・地域行事への参加・日常的な交流を心掛け、ホームの利用者も地域の一員として自然に生活できるよう努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を受け改善に向けて職員で検討している。また、自己評価も新たな問題発見場面ととらえ、みんなで意見を出し合いながら行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族・行政職員・区長・民生委員・近隣住民などに参加してもらい、2ヶ月に1度定例で開催している。参加者とは会議以外でも、花や農産物・公民館で使用していた什器の再利用も声がかかり、交流が増えた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政に出向く機会を増やしている。新しい企画や行事にも参加できるようお願いしている。介護相談員の導入も引き続きお願いすることになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書を渡す際や必要に応じて、随時各職員が口頭で家族に利用者の状況をお知らせしている。さらに、新聞を発行しており、渡すときに個人個人に手紙を付けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には気軽に意見が出してもらえよう、声をかけている。家族から出された意見はその思いを理解し、ホームでのとらえ方との違いを受け止め、対応するように心がけている。また、リハビリについては理学療法士にも相談し強化している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動が多いため顔見知りの関係ができている。新入職員も実習を行い馴染みの関係を早めにつくってもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には管理者やケアマネジャーが中心になって指導しているが、年に1度は外部の講師を招いて勉強会を行っている。また、職員の習熟度に応じて外部研修にも参加してもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会の東毛地区で取り組んでいるレベルアップ研修に参加し、他のホームの職員とも交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や関係者からの情報に加え、利用前には一日体験や見学など来所してもらっている。来所が無理な場合は、職員が訪問し本人と顔合わせをするようにしている。		
うにしている					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	『家族のような関係』で会話やサービスが提供できるように心がけ、利用者とともに支え合う関係づくりに努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の行動や会話、家族の考えを参考に、それぞれの思いや意向をくみ取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の介護計画は、本人・家族・職員からの情報をもとに、ケアマネジャーが中心になって作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的他に必要に応じて関係者で相談し、アセスメントをしながら見直しをしている。また、月に1度はモニタリングも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物の支援、外食などの対応の他に、ホーム内でもそれぞれの生活歴を尊重した環境づくりに励んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じた主治医の受診ができるよう支援している。協力病院には往診の他、インフルエンザの予防接種などの協力をしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を定め、入所時に説明している。その都度家族と相談し、安心してもらえるよう柔軟に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から自尊心に配慮した声掛けをするようにしている。また、プライバシーの保護についてのマニュアルを準備している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がどのような生活をしてきたのか、どのようなことに興味や楽しみがあるのかをよく観察し、職員は情報を共有しあいながら、その人本来の生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専門のスタッフが作っている。おやつ作りや上下膳、おしぼりたたまは利用者も協力している。食事は会話も弾み和やかな雰囲気職員も一緒にとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はほぼ毎日できる体制をとっており、週に3日は入浴支援をしている。足浴も利用してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に合った楽しみを見つけてもらえるよう働きかけている。野菜の収穫やカラオケ・おしぼりづくりや玄関掃除などホーム内での役割もお願いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけるようにしている。外食や地域の行事にも参加し、ホームに閉じこもらない生活を送るよう支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵はかかっておらず、自由に入出入りができる。外出の際には職員が必ず同行して見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民や消化器業者の協力を得ながら、年に2回防災自主訓練を行っている。	○	消防署の指導や協力を得た訓練も取り入れることを検討してみたいかがか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は主食と副菜に分け、水分も細かく記録し、チェック表で確認できるようになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や掲示物を利用して生活感を取り入れる工夫をしている。共同スペースである食堂の南側は全面が硝子戸のテラスで、見晴らしも良く自然との一体感を感じさせてくれる造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の生活が引き続きできるよう、それぞれ思い思いの家具や日用品を持ち込み、安心して過ごせる居室になっている。		